

社会医療法人同心会 古賀総合病院 「KOGAラダー」

看護の核となる実践能力：看護師が論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力

定義	レベル	新人	I	II	III	IV
		JNA版ラダー	JNA版ラダー	JNA版ラダー	JNA版ラダー	JNA版ラダー
	レベル毎の定義	必要に応じ助言を得て実践する	標準的な実践を自立して行う	個別の状況に応じた判断と実践を行う	幅広い視野で予測的に判断し実践を行いロールモデルとなる	より複雑な状況において、創造的な実践を行い、組織や分野を超えて参画する
臨床実践能力（看護の核となる実践能力）		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況においてケアの受け手にとっての最適な手段を選択し、QOLを高める他MnA看護を実践する
	ニーズをとらえる力	□助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	□ケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	□ケアの受け手や状況(場)の特性を踏まえたニーズをとらえる	□ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	□ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえてニーズをとらえる
	ケアする力	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
	意思決定を支える力	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
	協働する力	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
	めやす(対象)	新人	実務経験1～2年	実務経験3年以上	実務経験6年以上	実務経験11年目以上(主任)
研究自己能力教育	定義	自立に向けた指導を必要とするレベル	自律的にチームメンバーの役割を果たすことができるレベル	日常看護を遂行し、看護実践モデルとしてリーダーシップを発揮し後輩を育成するレベル	組織の目標達成のための業務改善や同僚の支援を行う。 組織のリーダーとしての役割を担い改善すべき点は同僚にフィードバックする。	スタッフの方向づけや育成を行い担当部署の目標達成に貢献するレベル
	役割	新入職者 チームメンバー	メンバーシップ 新入職者の相談役	リーダーシップの実践者 チームのリーダー・サブリーダー	※実習指導 ※実地指導者 委員会活動メンバー・リーダー リンクナース・NST	師長・主任の補佐的役割 委員会活動の主要な役割 教育担当者(研修運営・企画)
	管理能力	配属部署のメンバーとしての役割が果たせる		部署の日々のリーダー業務ができる(メンバーの時間役割調整など)	部署に委員会やその他の役割内容伝達などができる	委員会などの役割などリーダーシップが発揮できる
	教育能力	自身の実践や能力の内省・評価や課題の整理適宜同僚などからのフィードバックを得ながら学習を自ら計画的に行う		自身に必要な知識や経験などを判断し多職種と共に学び合うとともに組織の新人学生の指導を行う	自身のキャリアの中長期的展望を描きその点棒に応じた多様な学びを継続し同僚のモデルとなる	組織や看護・医療を超えて人材の生涯学習を支援する
	研究能力	院内研究会に参加する	看護研修に共同参加	看護研究計画と研究発表(院内)	看護研究計画と研究発表(院外)	研究推進 研究応用
	看護技術・技能	新人研修内容に準じた看護技術	各種ドレーン管理 CVポート 創傷管理	感染管理 気道管理 退院調整	院内認定研修リソースナース	看護管理 目標管理 コーチングスキル